

平成16年度見学会に参加して

川 田 泰 裕*

平成16年10月22日に行われた、新潟応用地質研究会の見学会に参加させていただきました。

今回の見学地は、環境をテーマとして、現在問題となっている廃棄物（ゴミ）の処理施設である、亀田焼却場と鎧渦クリーンセンター並びに、エコパークいずもぎきの3カ所でした。

①亀田焼却場

最初の見学地である亀田焼却場は、新潟市と亀田町及び横越町の3市町のゴミを回収し、このゴミを焼却した際に発生する余熱を、場内の発電や冷暖房、給湯に利用していて、更に付随する共同入浴施設のお湯もこの余熱を利用して沸しているとのことでした。

この施設の焼却炉は、600℃以上に熱した砂を巡回させている炉に、ゴミを投入して完全燃焼させる、流動床式焼却炉であるということです。ゴミを燃やすのに、砂を使っているということを初めて知り、驚きを感じました。

②鎧渦クリーンセンター

次の見学地の鎧渦クリーンセンターは、巻町と西川町、岩室村、渦東村の4町村のゴミを処理している施設で、溶融という技術を使用して、ゴミの中からスラグとメタルを取り出して再利用しているとのことでした。場内の見学の際に、このスラグとメタルを取り出す作業を見ることが出来ました。この作業は炉の底に長い鉄の棒を差し込み、たまったスラグとメタルを取り出すのですが、これを人の手で行っていることに驚きました。（耐熱服を着ているとはいえ、とても熱そうでした。）

午前中の見学で、流動床式と溶融の2種類の焼却方法があることを知り、それぞれのゴミの再利用方法は違いますが、ゴミを有効に活用していることを、実感することが出来ました。

③エコパークいずもぎき

鎧渦クリーンセンターを出てから、大河津分水でお昼ご飯を食べたあと、今回の最終見学地であるエコパークいずもぎきに向かいました。

この施設は、処理した廃棄物を埋め立てる最終処分場です。管理事務所では処分場からの浸出水の防止や、地元対応など興味ある話を聞くことができました。その中でも、処分場から出る浸出水は塩分を含んでおり、その塩分を抽出して道路の凍結防止剤に使用出来

*旭調査設計株式会社

るという話には、思わぬ副産物の利用方法に興味をひかれました。

管理事務所での説明を受けたあと、バスで最終処分場内を見学しました。その際、処分場の一角に山積みになった廃棄物があったのですが、それは7.13水害の際に発生した廃棄物で、見学会当時は、その受け入れが多いとの説明がありました。この廃棄物の多さを見て、この水害の被害が大きいものであったことを、改めて考えさせられました。

最後に、今回の見学会を通して、各施設の環境問題への取り組みを実感することが出来ました。また、これらのゴミを発生させている我々も、身近な問題として捉え、ゴミの分別に協力していく必要性を改めて痛感しました。

この見学会は、私にとって得るものが多く、有意義なものになりました。一緒に参加した皆さま、そして幹事の方々に感謝いたします。